

ともしび通信

発行：NPO法人没イ手の会・京都



梅雨空の下、あじさいの花が

雨に負けず、咲いています

東京にて パート2



次の日曜日、姉さん夫婦が私のアパートに午後1時過ぎに見えました。「お話を言うのはなんですか？」と私が切り出しますと、姉さんが「弘さん、洋子と別れてください」「え！今なんと」「いえね、二人の仲の良いのはわかるのだけれども、洋子の病気が一向に良くならないので田舎の兄と相談して、山形に返そうと思ってるの。弘さんにも大変負担になってるしこの際別れて、洋子を静養させたいと思って」「そんな、それなら別に別れなくても別居でも良いのでは」「それも考えたのだけれどもね。長くなるしダラダラと弘さんに負担をかけていつ戻れるかもしれないのだから、ここで切りをつけるた

めにも離婚して弘さんもやり直した方が良いと思ってる」

私は茫然とし頭の中を離婚、離婚の文字がグルグル回っていて、何を言ったら良いのかわかりませんでした。やっと「洋子は離婚などいやだよなあ」と言ってる洋子の方を見ると「私は姉さんから言われてもう覚悟はできているの。別れることにしましょう。これ以上弘さんの負担に成りたくないの」「ばかな！負担なんて僕は一度だって思ったことはないよ。僕は離婚などしたくない。姉さんこのままでいい。姉さんこのままでいい。教えてください」「でもね、こう言ったら気を悪くしないでね。弘さんの収入では洋子を大きな病院に入れてやることもできないで

しよ。山形では兄が大きな病院で洋子を静養させると言っているの「私はがんと、頭を叩かれたような衝撃を受けました。

確かに私の稼ぎでは洋子を満足に静養させる事はできません。それを言われると返す言葉がありませんでした。「しかし、しかし、姉さんそうだからと言ってる離婚しなければならぬことは無いと思いませんし、私は洋子と離婚など考えたことはありません。半ば涙声で訴えていました。

「弘さんの気持ちは良くわかりますし、洋子を大事に思ってくれているのはよく知っています。でもね、現実にはそれでは洋子の病気が良くならないの。この所をよく考えてくださいませんか。洋子のことを大事だと思ってくれているのなら、別れてお互い再起を考えた方がお互いの為なの」

「何がお互いのためだ！嫌だ、別れたくない！私は心のなかでそう叫んでいました。なんで別れなくてはいけないのだ！僕には洋子が必要なのだ！こんなに愛しているのになぜ！だんだん私は冷静さを失っていくのを感じていました。

「少し考えさせて下さい」「私はやっとそれだけと言うのが精一杯でした。

「分かったわ、考えて下さい、でも弘さん時間はあまり無いの。田舎の兄が所要で明後日東京に来るの。その帰りに洋子を連れて帰ると言っているの、急なことだけれどもよろしくお願ひするわ」

そんなに私の知らないところで事が進んでいるのに驚きましたが、洋子は全て聞いていたようで何も言いませんでした。また、姉さんの旦那さんも一言も喋らず黙ってうつむいていたのが私への思い

やりだったと思えました。私一人が抵抗していましたが、洋子とゆっくり話そうと考えて、姉さん夫婦には帰ってもらいました。

三畳一間の部屋で二人は無言で暫く向き合っていました。私はひつこいと思いましたが「洋子は本当に別れても良いのか？」と聞いていました。それしか言葉がありませんでした。

「私も辛い。でも弘さんにはもつと健康で素敵な人と一緒にあって欲しいの」「それ本気で言っているのか？」「本気よ」また、沈黙が続きました。時間がもう夕方になっていました。

春先のひんやりする季節、部屋の中も寒くなってきました。「夕ごはんは外でラーメンでもたべるか？」「そうね、私も作る気もあまりしないので、そうしたいわ」

二人は近くの中華料理店でラーメンを頼み、これ

が最後の晩餐かと私は思いながら、なんの味もしないラーメンを胃袋に放り込んでいました。

ぼつりと「なぜもつと早く言ってくれなかったの」「ごめんささい」会話はそれだけでした。

私は考えていました。これは全て自分が悪いのだ。仏教でおえられた物欲、金銭欲、執着心、は悟りにとつて一番邪魔な存在だと言う考えが私を何時も支配していた、食べて行けるだけの最低のお金があれば良いと、自分だけでなく洋子にも知らず知らずの内にそれを強いていたのでした。

しかし、私は未だ洋子と離婚するなんて考えもできませんでした。何とかならないものか。裕子を失い、ここでまた洋子まで失うなんて、仏様もまたしても私に愛別離の苦しみを与えてどうする気なのか、こんな苦しみはいらない。なぜ私にこれ程の苦しみを与えられるのか？私は思い切り泣きたくなるのをぐつと我慢して部屋に帰りました。

この夜はどのように過ごせば良いのか。洋子に申し訳ない気持ちと自分の情けない姿を見つ

めて、一つの布団に二人で背中合わせで寒さをしのいで横になりましたが、洋子の背中が僅かに震えていました。泣いているのです。私も泣きました。二人で泣きながら眠れない夜を過ごす。少し寒い夜でした。

籠谷弘

「会員 趣味のホームページ」

より その7

「ひまわり畑」

「ひまわり俳句」 山口佳寿子

そよ風にながれて匂う木瓜の花
雨と風めぐる間もなくサクラチ
る

「ひまわり短歌」 光木和子

カラフルな雨傘たちは浮き浮き
と登校の児らは黙々と行く

これがわが体内巡る大腸か奇怪
で愛らし2メートルの穴

「ひまわり俳句II」 菅沼清子

集まりし帰る娘（こ）送る春の月

草むしり軍手に君の温もりか

貰い物青い虫つき春キャベツ

「白ばら園」 奥村文代

故郷の母

いつも独りで 荒波を
かぶった母に 背を向けて
足で砂山 壊すよに
故郷捨てた 遠い春

街に染まって 時は過ぎ
つまずき倒れ 泣く夜は
恨みに思う 人にこそ
愛で返した 母偲ぶ

鳴き砂踏んで 耐えてきた
残る形見の 古い靴
思い出たどる この胸に
浮かぶ優しい 母の笑み

「チューリップ畑」 宮川敬子

加賀の味 鱈鯖旨し 蕪寿司

雪吊りの 松凧として 美し

き

歌声喫茶 7月の予定

「西院」(第2、4木曜日)

7月 8日、22日

「洛西」(第1、3木曜日)

7月 1日、15日

楽々亭第11回6月の予定

5月に引き続き、6月の
楽々亭も休会といたします。

訃報

没イチの会・京都会員の
前田美沙様
が4月23日にお亡くなりになりました。
心よりご冥福をお祈り
いたします。

歌声喫茶 6月の予定

「西院」 6月10日、24日

「洛西」 6月 3日、17日

に開催を予定いたしておりました歌
声喫茶を、5月に引き続き、休会と
いたします。

開催を楽しみにしておられた方には
大変申し訳ありません。

ともしび通信

発行元：NPO 法人没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町1丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。